

国際社会学部

片岡真輝

Masaki Kataoka

国際関係コース／オセアニア地域コース

記憶論・記憶の政治学、フィジー地域研究



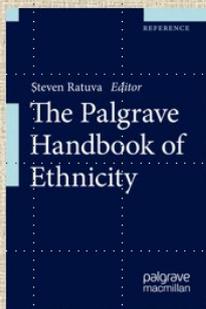
記憶論 × オセアニア

専門は、いわゆる記憶論 (memory studies) と呼ばれるものです。これは、集散的に形成された記憶 (集散的記憶と呼ばれます) をつかって様々な社会的、政治的な事象を分析する学際的な研究領域です。私は、特に太平洋島嶼国のフィジーという国を対象にして、複雑な民族関係を記憶論の理論的枠組みをつかって研究してきました。また、記憶とナショナリズムの関係や和解における記憶の役割などにも関心があります。記憶や歴史認識というレンズを通してフィジー政治や社会を分析するというのが、私の研究の基本ラインです。

研究紹介

フィジーにはイギリス植民地時代にたくさんのインド人労働者が移住してきましたが、先住民系とインド系の人々は政治的、社会的、文化的な衝突を繰り返しながら、平和的に共存できる方策を模索してきました。その複雑な民族関係の過去が現在のフィジー人にどのように理解され、それぞれの民族記憶にはどのような違いがあり、その違いがいかに現在の民族関係に影響を及ぼしているのか、そしてより良い民族関係を構築するにはどのような共通の歴史が必要か、ということを考えながら日々の研究に取り組んでいます。

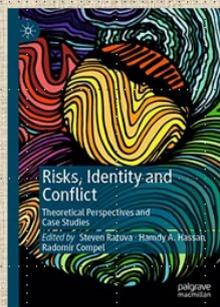
Diaspora as Transnational Actors: Globalization and the Role of Ethnic Memory



ディアスポラと呼ばれる人々がいかに民族アイデンティティをトランスナショナルに共有し続けているのかを、集散的記憶の共有という観点から解説。事例としてインド系フィジー人を扱っている。

Formation of Diaspora Network and Reconstruction of Collective Memory: The Case of Indo-Fijians

植民地時代に労働者としてフィジーに移住してきたインド系フィジー人と、オーストラリアなどに移住していった「インド系フィジー人ディアスポラ」のアイデンティティについて、記憶の観点から分析。



担当授業

- 英語 I・II
- オセアニア地域基礎 (メラネシア)
- 歴史認識論
- 紛争後社会と和解
- 記憶理論の地域研究への応用
- 太平洋島嶼国家論
- 専門／卒論演習 (記憶の政治学)

関連する分野

- 記憶論、記憶の政治学
- 国際関係論
- フィジー地域研究

出版物

- Reconceptualisation of Girit Memory: Fiji's Response to the Re-evaluation of the Colonial Past (Práticas Da História: Journal on Theory, Historiography and Uses of the Past)
- 「フィジーにおける多人種主義概念の批判的検証：被害者記憶を用いた記憶論的分析」『太平洋諸島研究』11：3-17.

国際社会学部

記憶の政治学ゼミ

どのようなゼミか

記憶論（memory studies）とは、社会的に共有されている記憶を分析して社会の構造や事象を明らかにする学問領域です。本ゼミでは、この記憶論の基本的な理論や分析手法、先行研究を学びます。そして、社会的に形成され集合的に共有されている記憶を使って、社会規範や人々の行動原理、国家間／集団間関係を分析できるようになることを目指します。

日本と韓国が第二次世界大戦の歴史認識について感情的に意見を対立させていることから分かるように、過去をどのように記憶して表象するかは国家間関係にも大きな影響を及ぼします。歴史は政治的に利用されますし、国家や国際社会から「押し付けられた」記憶に対抗するための「カウンター・メモリー」が形成されることもあります。過去をいかに表象してそこにどのような意味を付与するかは、現在の関心に基づいて決められますが、過去に関する認識が現在の我々の行動を規定することもあります。記憶は、人々の集合行為や政治的な決定、そして集団間の関係を決定づける重要なファクターのひとつなのです。

議論を通じて知見を蓄積しつつ、思考方法を培いながら卒業研究に向けて記憶の政治学の基本と研究への応用の仕方を修得していきます。



フィジーにおける「植民地時代の記憶」は、親イギリス派の先住民系の首長（チーフ）と過酷な労働を強いられたインド系で違う



植民地時代の海難事故を祈念するモニュメント（フィジー・ナウソリ）

卒論

- 『『犠牲者』に代わる新たな道徳的権威を用いたナショナリズム：杉原千畝の記憶を例に』
- 「戦時記憶の見直しの動きと和解：アルザス＝ロレーヌの強制召集兵の記憶から」
- 「サイパンの観光地における戦争の記念の分析：チャモロ人のヴァナキュラーな記憶に着目して」

おススメの本

- モーリス・アルヴァックス（鈴木智之訳）『記憶の社会的枠組み』
- キャロル・グラッグ『戦争の記憶 コロンビア大学特別講義－学生との対話－』
- イム・ジヒョン『犠牲者意識ナショナリズム：国境を越える「記憶」の戦争』



苦しみや悲しみの記憶を社会にとどめておくことは、悲劇を繰り返さないためにも必要